

ラブとティアとブレイブのおはなし



Shigeki M

まつたにしげき

2008年8月13日

はじまり

ラフとティアとブレイブはなかよしの小さな妖精でした。三人の妖精がゆうとくんのおうちにきたのは、ゆうとくんが生まれて、おかあさんとおとうさんと病院からかえった日のことでした。

「ここがゆうとくんのおうちか。」

わんぱくもののブレイブがおうちにはいるなり言いました。

「ゆうとくんはどこかな？」

女の子のティアがあたりを見回しました。

「ここだよ。」

真っ先に見つけて得意げな陽気なラフの声が聞こえました。三人は小さなおふとんの中でねむっているゆうとくんのそばにきて、その寝顔をのぞきこみました。

これから、三人はゆうとくんのお友達になるのです。新しい赤ん坊が生まれると、神さまから、ラフとティアとブレイブのような妖精がそれぞれの赤ん坊のお友達になるようにとたのまれるのです。

三人ははじめて赤ん坊のお友達になる新米の妖精です。ですから、すこしだけドキドキしていましたが、ゆうとくんがとってもかわいいあかちゃんだったので、これならうまくやっていけそうだと安心しました。

三人は「こんにちは、ゆうとくん。」とごあいさつをしました。その声に気がついてか、ゆうとくんはねむりながら小さく笑いました。

おかあさんは、「いま、笑ったわよ。」とおとうさんに言いました。おかあさんやおとうさんのようなおとなには、三人の姿も見えませんし、声も聞こえません。でも、赤ん坊にはその声もかたちもはっきりとわかるのです。



Shyoki M

おすわり

晴れた日のことでした。ゆうとくんはもうおすわりができるようになっていました。おかあさんがおそうじをしている間、三人はいつものように、ゆうとくんにお話をしていました。

ティアの得意な話は、お花畑のお姫さまの話です。それは、お花のお姫さまが土にまかれて、芽をだし、葉をだし、赤や黄色の花を咲かせてお日さまに照らされて、光輝くという、赤ん坊がとっても大好きな話でした。いつも静かに、ティアはおなじようで少しだけちがうお話をゆうとくんにしてあげるのです。今日のお姫さまは、ダリアというお花のお姫さまでした。途中、葉がでる時に、ラ



フが「ぶは」「ぶは」と葉っぱの出るときの音をまねるのです。この音は人間のおとなには聞こえない不思議な音でした。ゆうとくんはその音を聞くと、ばふばふと笑いました。

今日は、天気がいいものだから、お日さまも、雲さんも、お話にくわりました。お日さまは、ダリアのお花が黄色の花を咲かせてほほえむとき、それはそれは柔らかい光を窓からゆうとくに降りそそいでくれました。ゆうとくんは大喜びでした。雲さんはその笑い声を包むかのようにその姿をまるや四角に変えてみました。

トントントン。遠くで今度はお昼ごはんの準備におかあさんが包丁で何かをきざむ音です。そうすると、ゆうとくんもお腹がすいたのか急に泣きだしました。ティアはこまり顔、ラフはおどけて、いないないばあを何度もくりかえしますが、いっこうに泣きやみそうもありません。

おかあさんがきて、おっぱいをのませてあげるとゆうとくんはようやく泣きやみました。やっぱり、おっぱいがいいのかな。もぐもぐとおっぱいを飲むゆうとくんをお日さまと雲さんといっしょに三人はしばらくながめていました。

お散歩

ゆうとくんのうちの近くの線路ぞいの道からさくらのある公園にゆくのがいつものお散歩の道です。お散歩のときは、乳母車のまわりを三人は得意の羽で飛びながらついて行きます。

三人はおかあさんのお歌にのって踊るように飛ぶのです。そうすると、ゆうとくんはとってもいいお顔になりました。乳母車はおかあさんのお顔が見えないので、ゆうとくんはちょっとだけさびしいのですが、三人の楽しい踊りとおかあさんの歌でご機嫌です。

それに、ブレイブは元気に高く遠くまで偵察の飛行をしては、いつも、ゆうとくんに見てきた事をおもしろく話してくれました。電車が遠くから来ているだとか、その電車が今日はどうもおかぜをひいているらしいだとか、線路沿いの林の枯れ木が春を待って小さな芽をふくらし始めただとか、ほんのすこしのお散歩なのにあっちからこっちへ忙しく飛んで教えてくれるのです。

ブレイブのたのしいお話に、ゆうとくんは、ときおりはしゃいだ声をだしました。その声にますます、おかあさんの歌は楽しく、やさしくなりました。すると、ラフとティアの踊りも軽ろやかになりました。ですから、ゆうとくんはお散歩が大好きなのです。



Shykim

はいはい

暖かくなってちょうちょうが飛ぶようになったころ、ゆうとくんはいはいができるようになっていました。はいはいができるようになると世界はとっても不思議に見えました。ゆうとくんが動きだせるようになったので、ブレイブはうれしくてなりません。

「こっちだ、こっちだ。」

ブレイブはあちらこちらに飛び回ってはゆうとくん呼びかけます。ゆうとくんはその声にはずんで、あちらへこちらへブレイブの後を追ってはいはいです。ティアとラフは窓辺でそれをながめています。

この間まで、見るだけだったテーブルの下も、タンスのビルもじゅうたんの草原も、ゆうとくんは自分のちからで動けるのです。ブレイブの声にかさなってお椅子さんがひくい声で言いました。

「このトンネルをくぐってごらん。」

ゆうとくんはまた、はしゃいだ声を出して、お椅子のしたにもぐりこみました。でも、お椅子の向こうにはスリッパがぐうぐう寝ていました。ゆうとくんは、そのスリッパですべてはまって頭と床とがごつつんこしてしまいました。

「えーん。」

おおきな泣き声です。ティアとラフが飛んできました。おかあさんはベランダで洗濯物をほしているのに、まだ泣き声に気づきません。ティアがゆうとくんのおつむをすぐに見ました。ぜんぜん、平気。おけがはありません。でも、ブレイブとスリッパさんは、こまり顔。「僕らが、わるいんだね。」と二人ともベソをかいていました。

こういうときは、ラフの出番です。

「痛いのは東に飛んでけ、涙は北の空へバイバイさ。」

とさけぶと、とっても楽しいお歌にとっても不思議なふりつけの妖精の踊りをするのです。

どんどこ、どどど。タンタンタン。ちゃちゃスチャ、ちゃちゃどん、どどどど。



Shyaki M

不思議な不思議なリズムです。ラフはゆうとくんの目のまえを宙返りしたり、逆立ちしたりして、リズムにあわせて踊るのです。泣いていたゆうとくんの顔がすこし、とまります。ラフが今度は

「笑え、笑え、楽しいときは笑ってしまえ。」

と歌うように言います。

タンタンちゃちゃスチャ、ちゃちゃどんど。

ようやく、ゆうとくんは笑い声になりました。ゆうとくんが笑ったので、スリッパも何だかうれしくなっていっしょに口をあけて笑いました。

「笑ったあとは、行進だ。」

今度は、ラフが先頭で、行進です。どんどこ、どどど。タンタンタン。ゆうとくんがそれに続いて、はいはいです。スリッパさんもブレイブもティアもそれにつづきます。

あんなにおお泣きした後なのに、けらけら笑って、ゆうとくんははいはい。ごっつんしたけど、ラフのおかげで、はいはいをまた好きになったようです。

さようなら

それからしばらくしてからです。ゆうとくんは「マンマ」とおかあさんのことが呼べるようになりました。「マンマ」とゆうとくんが言えたとき、三人はおおはしゃぎでよろこびました。

「ゆうとくん、やったね。もうお言葉がはなせるだね。」
ブレイブがいました。ラフもよろこびの踊りをして、ティアがほほえんでいます。

でも、三人はどこかかなしいかおをしていました。人間の言葉が話せるようになるとゆうとくんはすこしづつ、ティア達の言葉がわからなくなるのです。風さんのささやきも、少しづつただのさわさわした音に聞こえてきます。お日さまの言葉も単なるポカポカな陽気にしか感じなくなるのです。ゆうとくんが「ママ」と正確にいえるようになるのはもうあと少しです。

お月さまがとってもまるく、きれいな夜でした。ゆうとくんはすやすやねむっています。三人はゆうとくんにおやすみのおうたをお月さまといっしょに歌ってあげました。そして、すがたが見えなくなっても、三人のことをすこしでもおぼえていてくれますようにと、交代で、ゆうとくんのほっぺに小さなキスをしました。

「おおきくなって、かなしいとき、ひとりぼっちだと思ったとき、くじけそうになったとき、そっと耳をそばだてごらん。僕たちがきみのそばにいてあげるから。。。僕が笑顔をとりもどしてあげるよ。ひとりじゃないからね。」
ラフがちいさくいいました。



おしまい。